

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人 社団明徳会		
事業所名	グループホーム いつくみの郷 (1階)		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	平成24年11月25日	評価結果市町村受理日	平成25年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kami=true&ligyosyoCd=2278300311-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院がすぐそばにあり、いつでも受診できる。・夜間の救急体制が万全である。・豊かな田園風景の中で自然に囲まれ、のんびりと生活できる。・毎月季節に合った行事や外出を取り入れ、毎月写真付きのおたよりを利用者及びご家族に発行している
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浜松市の北部、郊外型商業施設に程近い場所に事業所は位置しています。また、隣接病院と24時間対応の医療連携が出来ていて、安心できる環境にあります。中高生の職場・福祉体験の受け入れが契機となり、新卒でグループ内の施設に入職した学生もおりました。月2回は外出の機会があり、外食ピクニックやドライブで楽しみ、またイチゴ狩りは家族も参加するなど、行事の充実ぶりを毎月発行の「いつくみの郷たより」の中で窺う事ができます。各種の取組みが功を奏し、また職員全員が常勤で定着率も高く、入所前の硬い表情が穏やかな表情と変遷していく様子を見るにつけ、管理者・職員の大きな励みとなっています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちにのよい生活」を理念とし、玄関に掲示しながら共有している。1人1人にとって気持ち良く生活出来るように援助している。	玄関に掲示された「気持ちのよい生活」の理念は、職員に「自分ならどうされたいかを常に意識しながらケアに活かすように」と管理者は求めている、毎朝のミーティングで話し合っています。常に立ち戻る原点として、職員の意識に浸透が図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な交流はあまり出来ていない。散歩などの外出で会った時にあいさつを交わしている。隔月で「いつくしみ便り」を町内会に配っている。	自治会にも加入し、散歩時の挨拶やおすそ分けもあり、事業所の祭りにも地域からの参加があります。また、自治会の回覧用に「いつくしみ便り」を隔月発行しています。中高生の福祉・職場体験を受入れ、来年度は看護体験の受入も予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「いつくしみ便り」を配ったり、運営推進会議を通して区役所の方々と連携を取っている。中学生や高校生など職場体験を受け入れ、これからの介護現場での担い手の育成に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居の状況、最近の入居者の方々の様子を伝えている。	自治会長、民生委員、市、包括、家族代表の参加があり、進行は職員がもちまわりであり、2ヶ月に1度開催されています。参加者からは困難事例に対し中立な立場でアドバイスいただき、自分たちのケアの方向性を評価してもらえるなど自信に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、質問や相談をしている。	運営推進会議には市担当者、地域包括も毎回参加しています。案内状も直接窓口に届け、相談しやすい関係作りに努めていて、有益なアドバイスをもらっています。介護相談員の受入が毎月あり、介護保険課が主体となったグループホームの会議にも参加しています。	市の担当者とは相談しやすい関係が窺えますが、運営推進会議議事録も直接届けるなど、さらに事業所を理解してもらえる工夫を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践している。玄関の自動ドアは出るとすぐ車通りが激しい道路で危険なためタッチ式になっている。いつでも外に出られるよう行きたい様子があれば一緒に出ている	身体拘束ゼロ宣言をしていて、玄関施錠はありません。タッチ式開錠スイッチが、通常の出入りには問題ない位置に設置されていて、利用者が扉前で迷っている時には職員が寄り添って、いつでも出られるように対応しています。最近では事前に察知して外出を誘う対応もできています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、施設全体に向けて勉強会が行われ自主的に参加、勉強することが出来ている。管理者からの指導のもと、常に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は個々に研修で学べる。活用するのは主に相談対応する管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の面談にて、ご質問やご意見ご要望を伺い、そのあとも話が聞ける態勢を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面談時、面会にみえた時に声を掛けてご意見を伺ったり最近の様子を伝えさせてもらっている	面会時に職員が気軽に声掛けをし、利用者の状況を丁寧に説明しており、意見の言いやすい関係づくりを心掛けています。面会の少ない家族にはせめて行事への参加をとの想いから、職員が迎えに出向くなど熱心な取り組みがみられます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者に相談する機会があり、フロアミーティングにも参加してもらい、意見や質問をする機会がある。	フロアミーティングを毎月行っています。また、職員が「一年の反省と来年の抱負」を書面化し、自発性を持ったケアに取り組んでいます。管理者は職員の夜勤帯に出向いて、個別の相談に乗ることもあり、言いにくい意見の吸上げに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	なるべく勤務時間内に終われるよう協力し合うようにと指導があり、職員同士配慮し合っている。休日希望は全て通っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番で行けるように配慮されていてみんな参加できている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加することで同業者と交流することはある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	そばにいて安心できるよう居場所を作ってあげられるように配慮し他入居者の方々と関わりが持てるよう場面作りをしたり、一对一の場面で本人に不安を感じることはないかゆっくり気持ちに共感しながら話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを十分に行い、ご家族の思い、要望などをゆっくり共感しながら聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いを確認し、その時の状況に合わせた支援ができるように話し合い、本人の立場に立って解決策を追求している。。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人に出来ることや昔からしてきたことなどを把握し、役割を持って頂いている。頼りにすることで信頼関係を築けるように心掛けている。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって良いことをご家族に相談しながら決めている。ご意見を聞いたなら、参考にさせてもらっている。ご家族に散歩などご協力して頂くなど連携を取っている。。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・外泊の要望があればご家族に相談し、可能な限り行って頂き近所の人や馴染みの店に出掛け関係が途切れないようにしている。	入所歴が長い利用者が多いため、毎週皆で行う習字などのレク活動が馴染みのひとつとなっています。新聞を購読したり、家族との外出で楽しむ利用者もおり、また、若い職員にゆかたの着付けをしてあげ、優しい母親の一面が表出する利用者もおります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人を近くの席にして孤立しないように会話や行事を通してより良い関係を築けるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されてもお見舞いに行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活が大きく変わらないようにご家族と相談し、本人から要望があればできる限り行えるようにしている。	利用者との関係が長いので、日々のケアを通して利用者の意向把握ができています。イエスノーで答えられるような話材の提供で表出に努め、利用者の心にコミュニケーションしようとする工夫が見られます。得られた発語は生活記録と実施記録表に記し介護計画に反映させています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から生活歴や生活環境、これまでのサービス利用を聞き、職員全体で把握しながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動や心身の状態を観察、記録して職員同士で情報を共有し何か変化があった場合は話し合いながら対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族にご意見を聞き、フロアミーティングで職員間で話し合い、介護計画を作成している。ケアプラン会議で発表し、検討している。	毎月のケアプラン会議で話し合い、3ヶ月ごとの評価見直しに繋がっています。時には理学療法士の参加も得て、別チャンネルからの意見も加え、画一的にならない介護計画を目指した仕組みがあります。変更の際には、家族に面談し了解を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活記録、日誌、申し送りノートを活用し、生活記録には気付いた事や発言、行動など特別なことがあれば、詳しく記録するように心掛けている。情報は職員間で共有し、日々の話し合いやミーティングでより良いケアを見つめ直したりと活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にとって何が良いのかを考えてご家族に相談している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月、スーパーへ買い物や外食ではレストランに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十全病院が、かかりつけ医となっており定期受診に行っている。何かあればすぐに担当の医師に相談し受診できる。入居者の健康状態を把握してもらっている。	ほとんどの利用者が経営母体の病院をかかりつけとしていて、利用者と家族の最大の安心となっています。看護師資格の管理者のもと、毎日のバイタルチェックと24時間対応の病院が後盾となり、緊急時には速やかな対応ができる秀逸な医療連携が叶っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異変があった場合は看護師に相談し、指示をもらい対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人の十全病院なので、情報交換や相談はできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人にとって居心地のいい場所はどこか考え、ご家族に相談・方針を決めるために面談の機会を設けるなどしている。	継続医療の必要がない利用者の終末期ケアに取り組んだことがあります。看取りの実績はありません。重度化には病院への転所を支援し、入院後も職員が経過を窺いに行くなど、家族・管理者・職員・主治医が共に協力し合えるよう、日頃からより良い関係作りに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などマニュアルがあるので看護師に日頃からアドバイスをもらっているが、訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中の避難訓練は年二回行っている。夜間は行っていない。	年に2回、隣接の関連施設と防災訓練を行い、自前の設備で放水訓練もしています。地域からの参加はありませんが、運営推進会議では地域の避難所的な役割を担うとの意見もあり、有事に備え関連施設と一体となった備蓄に取り組んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、気分を害する言葉づかいをしないように充分気を付けている。居室に出入りする際は一声掛ける。特にトイレは羞恥心に配慮して行く。	利用者の人格を尊重し、呼称は名前にさんづけを基本としていますが、利用者や家族の希望でちゃんづけの場合もあります。会話では常に敬語を心がけていて、とりわけトイレケアには配慮しています。毎年法人研修で接遇研修を受け、内部研修で共有化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも入所者の方々のペースに合わせて自己決定してもらっている。言葉が思うように出てこない方もいるので、しぐさや表情からさりげなく思いや希望を聞けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩など毎日希望される方やゆっくり食事やお昼寝される方などご本人に合ったペースで過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪の声掛けをしたり、洋服の着替えでは二者択一にしてご自分で選んで頂いている。なじみのある化粧品を継続して使って頂くために無くなる前に買い足して身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備ではやりやすいことをしてもらい、週一回の昼食作りでもお手伝いして頂いたり、できないことはフォローさせてもらいながら無理強いないよう気を付けている。	食事は法人内の厨房センターから届けられていますが、週1~2回は準備から片付けまで、利用者と職員が協力し合い行っています。米とぎに精を出したり、食器の片付けで以前の自分を発揮する利用者の姿があります。週1回は汁粉やふかしイモなどおやつ作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を確認し、記録している。10時、15時、外出後や入浴後などこまめに水分補給している。食事量が足りない時はカロリーメイトなどで確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、歯みがきやうがいであったり個々に合わせている。入れ歯の方が多いので寝る前は特に歯みがき、入れ歯の洗浄とていねいに行い、清潔を保持している。。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導声掛けなどで日中は布パンツや失禁パンツで過ごされる方もいる。トイレで排泄できる方は継続できるよう支援している。	排泄記録表でパターンを把握し、声掛け誘導で失敗の少ない排泄に努めています。一人ひとりに合った排泄支援に取り組んでいて、夜間は安眠優先や定時声掛け誘導等、その人に合った排泄方法を選んでいきます。出来るだけ夏は布パンを心がけていて、入所前から改善した例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人1人の排便の原因を考え、牛乳やプルーンを毎日摂取したり、散歩に出掛け運動している。排泄記録表で便秘の状況を把握している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重している。無理強いせず、気持ち良く入浴できる時間帯・タイミング・声掛け・入浴剤を入れるなど工夫し、支援している。	毎日入浴準備があり、希望すればいつでも入浴可能で、朝、昼、晩の好きな時間に入浴できるよう支援しています。自立入浴で夜入浴を味わう利用者もおります。湯は個々に張り変え入浴剤も選べます。柚子や蜜柑風呂なども試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方には休息をして頂き、職員のペースに合わせないようにご本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院で処方された薬情報をカルテにとじてあり、変更なども常に確認できるようになっている。服薬の方法も個々に合わせて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いは1人1人出来ることを行っている。毎日散歩に行きたい方には合わせていたり、入居者の皆さん全員で月に1、2回外出する機会がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に行きたい時に散歩に行ったり、毎月1、2回は買い物や外食を企画し、出掛けている。	毎月1、2回は買い物や外食に出掛けていて、下着などショッピングモールでの個別購入支援も行っています。イチゴ狩りや初詣、また、フルーツパークなどにでも出掛け、季節を楽しんでいます。散歩は近・中・遠の3コースを用意していて、体力に合わせて選んでいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいは職員が管理しているが、財布を持ち、小銭などを持つことで安心される方は持っている。自分で支払う方や混乱を避けるためあえて支払いをして頂いていない方も多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望があれば掛けてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物をしたり、写真やお便りなどを飾っている。食堂には加湿器を置き、脱衣所には暖房器具や扇風機を置いている。	行事で出掛けた写真が壁に飾られ、楽しい思い出がよみがえってきます。温度湿度計でしっかり管理され、エアコンと、程良い換気で外気との温度差が少ない快適な居住空間ができています。バリアフリーの畳の間に、くつろぎの雰囲気があります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方々はお互いの居室を行き来したり、一緒に食堂のソファに座りお話ししたりと思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して使いなれた家具やご家族の写真などを飾っている。	カーテン、電動ベッド、押し入れ、エアコン、洗面台が備え付けてあって、ベッド困難者はクッションフロアを敷いています。筆筒、仏壇、冷蔵庫、ソファなどの馴染みの物の持ち込みもあり、また、趣味の大正琴を持ち込んでいる利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に名前とご本人の写真を貼っている。夜間はトイレだと分かりやすいように明かりをつけておく。		